

太宰府市短歌ポスト 第百十八期入選歌

(令和五年五月二十五日)

選者 大久保富士子

目を浴びてふたりで笑いつつまでも思ひ出を太宰府の神に

東京都 寺内智子

太宰府に詣でる人の多かりき梅が香のする古都あればこそ

東京都 竹下奈穂

手袋の先に感じる冷たさも梅見上げれば春のお知らせ

さいたま市 山田真桜

太宰府へ御利益求め来たもののまづは己と向きあうべきかな

神戸市 大矢康平

新緑を揺らし足りない青嵐が参道をゆく群れをかすめて

福岡市 藤原みのり

梅の花万葉の歌人多かりし筑紫路の里我が誇りなり

福岡市 松澤登代子

むらさきの衣たなびく大野山達の朝廷ぞまことうらはし

奈良県 辰巳恵治

少しずつ咲き始めたる飛梅は誰より先に春を知るらむ

春日市 鈴木倫子

小中学生の部

曲水の梅の花びらまいながら目の前に見える平安時代

福岡市 古原仁美 十才

すきわたる鳥居の上の冬空に想い伝わる菅原の念

久留米市 伊達壮志 十四才

梅の花もちで感じる春の訪れもちもちしてておしいな

東京都 木元麗美 十才